

学生のうちに読んでほしい、先生おすすめの1冊

今月末の定期試験が終わると、新学期・新社会人に向けての準備期間を迎えます。約2か月間で何冊か本を読んではいかがでしょう。ということで、今回は4名の先生に学生のうちに読んでほしい本を紹介していただきました。



デニ・ムクウェゲ 著
すべては救済のために
あすなろ書房

Interview

私は幼い頃アフリカに住んでいた経験があり、その際に自分よりも小さな子供達の貧困を目の当たりにして、なぜ自分とここまで違いがあるのかと疑問に思いました。このことがきっかけで貧困や紛争要因に興味を持ち、様々な本を読むようになりました。



ジーン・サッソン 著
プリンセス スータナ
星雲社

まずご紹介したいのは、2018年にノーベル平和賞を受賞したデニ・ムクウェゲ医師の自伝『すべては救済のために』です。彼が活動するコンゴ民主共和国東部では今なお紛争が続いており、貧困や病気に苦しむ人に加えて、たくさんの女性の性暴力被害者が存在します。彼は、そんな傷ついた女性を献身的に支え続ける産婦人科医です。生々しいエピソードは「紛争地の現状を知る」ことができます。

るとともに、「自分の今を見直す」きっかけになると思います。

また、ジャンルは異なりますが、Jean Sasson(ジーン・サッソン)の『Princess』という本もオススメです。これはサウジアラビア王国の一人の王女の実話に基づく話で、海外の書店に立ち寄った際に原作の表紙に惹かれて購入しました。産油国の王女と聞くと煌びやかな生活を送っていると思いがちですが、この本を読むと想像を絶する風習やしきたりなどが描かれていて驚かされると思います。和訳『プリンセス スータナ』は本学図書館に蔵書されていますが、ぜひ原作にチャレンジしていただきたいと思います。

私は、できれば学生のみなさんには、自分の興味のある場所へ行つて、直接現状を感じ取ってほしいと思っています。ですが、費用や安全面などの理由から実行するのが難しいこともあります。そんな時、読書はとてもよい手段です。必ずや視野が広がると思います。

(学生記者／土屋香奈)



外国語学部英語学科 准教授
佐野康子(さの・やすこ)



田中芳樹 著
銀河英雄伝説
全10巻、外伝全5巻
東京創元社
創元SF文庫

Interview

私は、幼い頃に両親から読み聞かせをしてもらっていました。小学生くらいになると、読み聞かせをしてもらえなくなったのですが、しばらくすると、無性に物語を求めるようになり、江戸川乱歩やコナン・ドイルなどの作品を読むようになりました。それが読書をするようになったきっかけです。

私がおすすめしたいのは『銀河英雄伝説』です。この本をおすすめした理由は二つあります。一つ目は群像劇であることです。ストーリーが進行していくにつれて多くの人物が登場し、一人一人に焦点が当てられ、物語が展開していきます。現実の社会も自分以外の多くの人が集まって構成されています。この本を読むことで、自分以外の人にも立場や意見があることを理解し、多様な観点を持てるようになってほしいと思います。

二つ目は、長編小説であることです。現実の社会における法制度や経済システムは相互に関連しあっており、広く捉える必要があります。また、法制度や経済システムは長いスパンで見ることが大切です。最近では動画投稿サイトなどの影響からか、長いストーリーを敬遠する学生が多いように感じます。『銀河英雄伝説』の面白さは定評がありますし、多少読み飛ばしても、話の内容は理解できますので、この本を読み切って、長いストーリーに慣れてほしいと思います。

『銀河英雄伝説』は、漫画化、アニメ化もされていますが、ぜひ小説を読んでください。本を読むことと漫画アニメを見ること、それぞれの良し悪しを比較してみるのもいいと思います。

出版された本は世に出るにあたり、多くの人が関わっています。大勢の人が「価値がある」と思い、発行されたものですから、これからは学生には本を読むことを勧めたいと思っています。

(学生記者／越川響)



法学部総合政策学科 教授
若尾岳志(わかお・たけし)

図書館



本学図書館は98万冊の蔵書があり、大学ホームページから蔵書検索も可能。現在、春季長期貸出受付中(p.13参照)。詳細は大学HPをチェック。

ぶっくぎゃらりいDUO



35周年記念館1階にある「ぶっくぎゃらりいDUO」では、書籍や文房具が定価の10%OFFで購入できる(一部対象外あり)。取寄せにも対応。

2019年大学生に一番読まれた本(年間)

(全国丸善大学売店 文庫本ランキング)

- 1位 コンビニ人間 村田沙耶香
- 2位 思考の整理学 外山滋比古
- 3位 蜜蜂と遠雷<上・下> 恩田陸
- 4位 人間失格 改版 太宰治
- 5位 星の王子さま サン＝テグジュペリ

読み方としては、情景を思い浮かべ、登場人物の表情や感情を想像して読むと、理解を深めるきっかけになります。本作品は2013年に日本でドラマ化されています。読んで後に自分のイメージと見比べて「答え合わせ」のような作業をするのも、人によって同じ作品に持つイメージの相違などが分かって面白いと思います。

(学生記者／高橋弘行)



経済学部経済学科 教授
山下裕歩(やました・ゆうほ)

現代社会はあらゆる媒体を介し、数多くの情報に容易に触れることができます。学生の皆さんには雑多な情報の中から有益な情報を抽出し、これらを統合し、活用ができるよう、スキルを身につけてほしいと思います。

(学生記者／遠藤瑞稀)



国際教養学部言語文化学科 教授
和田 智(わだ・さとし)

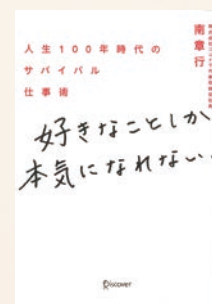


ドストエフスキー 著
カラマーゾフの兄弟
新潮社

Interview

ドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』をおすすめします。この本は、難しい文学作品と思われがちですが、推理小説のように次の展開を期待しながら読み進められるので、比較的読みやすいのではないかと思います。主人公が魅力的であるとともに、作者が読者を引き込むために非常に構成を練って作っているのが分かります。ネタバレになるため詳細は伏せますが、ある罪を犯した登場人物の一人が、別の登場人物に対して「本当の犯人は貴方だ」と詰め寄る場面などは、夢中になって読んだのを覚えています。この作品は、第二部の執筆が想定されていましたが、第一部を書き終えたところで作者が亡くなり、未完作品となっています。ただ、第一部だけでも大変素晴らしい作品です。

今回紹介する『好きなことしか本気になれない。人生100年時代のサバイバル仕事術』は、株式会社コナラの創業者である南章行氏が書いた本です。コナラ社は、利用者同士がスキルやノウハウをシェアし、手軽に理想的なコミュニティを創造するサービスをビジネスとして展開しています。南氏は、この本の中で、今後の技術革新に対応することができるようなライフスタイルを提案しています。時代の流れを敏感に感じ取っている方の思考や感性に触れることは、非常に有意義です。



南 章行 著
好きなことしか本気になれない。人生100年時代のサバイバル仕事術
ディスカヴァー・トゥエンティワン社

Interview

私は高校生、大学生の頃、スポーツに力を注いでいて、毎日限界まで身体を追い込んでいました。なかなか時間を作ることができなかったため、読書をする際には必要とする箇所を効率よく読み、必要な情報を蓄積することを心がけていました。